

# ようこそ校長室へ！

No. 28

令和5年9月1日

発行：貝塚敦

に にこにこ笑顔で い いつもみんなで つ 紡ぎ繋げる心で に 日本一をめざすのだ

## 「小さなガッツポーズ」に込める思い

コロナ禍前の日常がかなり戻ってきました。学校の教育活動も、世の中のスポーツや文化活動も例外ではありません。

学校では、昨日(8/31)から、新風祭に向けた競技や応援の取組を本格的にスタートしました。

この夏の高校野球も、久しぶりにスタンドの大応援が帰ってきました。今年は慶応高校の優勝で幕を閉じましたが、SNS等では、慶応高校の応援について賛否両論の意見があり物議をかもしたのは記憶に新しいと思います。

一般論として、新風祭の応援でも同じことが言えますが、自分のチームや身内やひいきの対象を応援することは自然の感情ですし、最低限のマナーと相手へのリスペクトがあれば、決して非難されるべきことではないと思います。自分自身も、自校や我が子の部活動の大会等では、もちろん大声で応援したこともありますし、時には、相手チームなどから「品のない応援」だと揶揄された苦い経験もあります。

ただ勝負事の場合、立場や視点が異なれば賛否が入り混じることは仕方のないことです。ただ、今回の高校野球のように、必死に頑張っている当事者の選手には何の罪もないのに、あれこれ外野の話題で騒いでいる状況や昨今の風潮はいかかなものか、と常々苦々しく思っています。

別の話題としては、世界陸上のやり投げで、北口選手が最終投擲で大逆転し金メダルを獲得する快挙に日本中が沸きました。金メダルが確定し、喜びを爆発した北口選手の満面の笑顔、コーチや練習仲間と抱き合いながら喜びを分かち合い涙した振る舞いは、まさに勝者だけに与えられる特権でしょう。ただ、私自身日本人だからこそ感じた感動的な場面と当然のように受け止めたが、これも立場が異なる人にとっては、違った感情を抱く人もいないとは限りません。

繰り返しますが、様々な大会や場面場面での自分の支持する人やチームへの熱狂的な応援や声援は、人として自然の感情表現です。また、勝利や会心のパフォーマンスに、当事者である選手やチームのメンバーが喜びを爆発させることもまた、その根底にあるそれまでの努力の賜物や応援してくれる周囲への感謝の気持ちがあればこそ当然の振る舞いであります。

一方で、これらの姿と対極に位置している人間もいます。言わずと知れた、

我が新津二中出身の誇るべき大先輩、9月9日から始まるラグビーワールドカップ日本代表に再び選出された稲垣選手です。

「笑わない男」との異名をもち、前回のワールドカップを機会に大ブレイクしました。彼は、あるメディアのインタビューにこう答えています。

「ただ自分の力だけを振りかざしていたら、客観的に見て『なんだあいつ』となると思う。ちょっとうれしいことがあっても、『自分がすごいかも』と思ったりしたとしても感情を出さないようにしている。何事もなかったかのように振る舞う。バカ笑いもしないし、試合に勝った時にも大げさに喜ぶ必要もないと思う」稲垣選手にとっては、これが彼自身の美学なのです。

私が、今年に入って、数あるスポーツの感動シーンから一番ジーンときたものを選べと言われれば、先月の世界陸上の男子円盤投げ決勝でした。稲垣選手の美学とどこか通じるものを覚えたものです。

スウェーデンのスター選手は、最終投擲で逆転して金メダルを獲得しました。彼は、投げ終わって記録を確認した後、特に大げさに喜びを爆発させるのではなく、サークルを出て悠然と歩いて控え場所に戻ろうとします。しばらく歩を進めると、やおら片膝をついて前かがみに腰を落とし、控えめに右手で小さくガッツポーズをしたのでした。あれには本当に感動しました。心の底からかっこいいと思いました。

二中の子どもたちにも、この中学校生活で、自分なりの「小さなガッツポーズ」をコツコツ積み重ねながら、様々な成功体験、感動体験、成長体験をしてほしいと思うのです。もちろん新風祭や合唱祭などの大きな学校行事がその絶好の機会となり得るのはもちろんです。しかし、それ以外のどんなささやかなことでも、自分なりの成長の証である「小さなガッツポーズ」を何度も何度もできるように努力することが大切です。「小さなガッツポーズ」の蓄積こそが、自己有用感や自己肯定感を醸成し、やがて未来の人生の大きなガッツポーズにつながるはずですから。

「小さなガッツポーズ」とは例えばこんなことも挙げられます。学校や保護者や地域では、挨拶のできる子に育ててほしいという願いをもっています。だからといって、いつも大きな声で元気に挨拶を返す子がえらくて、それが一番だとは思いません。朝の登校時に、これまでなかなか挨拶ができなかったのに、小さな声でぼそっと「おはよう」とつぶやいてくれるようになった君の姿を、私はよく知っています。その努力を私は本当にすばらしいと思うのです。その子にとっての大いなる「小さなガッツポーズ」に値する成長です。そういう努力ができる子が二中にはたくさんいることも確信しています。

来るべきラグビーワールドカップ。学校や郷土の誇りである偉大なる稲垣選手の応援とともに、ぜひ、君も「小さなガッツポーズ」に向けて、今日も明日もトライ＆トライ！